

令和 8 年 9 月 17 日
気象庁大気海洋部

配信資料に関するお知らせ

～「線状降水帯の雨域（シェープファイル形式）」の配信資料に関する仕様 No. 11103
及び配信資料に関する技術情報第 667 号の訂正について～
（配信資料に関する技術情報第 667 号関連）

「線状降水帯の雨域（シェープファイル形式）」の配信資料に関する仕様 No. 11103
及び配信資料に関する技術情報第 667 号について、一部の記載内容に不備がありましたので別添のとおり訂正します。

令和 7 年 12 月 22 日
令和 8 年 9 月 17 日別添訂正
気 象 庁 大 気 海 洋 部

配信資料に関する技術情報第 667 号

～線状降水帯の雨域のシェープファイル形式の一部変更について～
(配信資料に関する仕様 No. 11103、配信資料に関する技術情報 No. 605 関連)

概要

気象庁は、**顕著な大雨に関する気象情報気象防災速報（線状降水帯発生）**を発表した際**には**、気象庁ホームページの「雨雲の動き」「今後の雨」においても、線状降水帯の雨域を楕円で表示しています。

今般令和 8 年 5 月 28 日、ホームページ上の楕円表示を改修**する**したことから、シェープファイル形式の一部変更を行うこととしましたのでお知らせしま**す**した。

1 実施日時

~~令和 8 年度出水期を予定しています。日時が決まり次第、配信資料に関するお知らせにより別途お知らせします。~~令和 8 年 5 月 28 日（木）13 時 50 分（日本時間）初期値の資料から

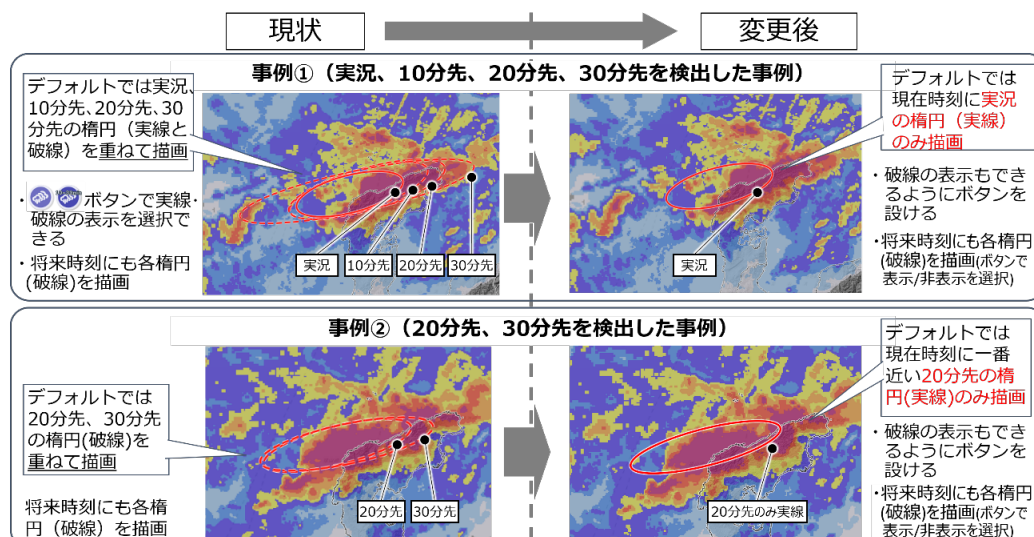
2 ファイルの変更内容

属性ファイルに描画フラグを追加し、フィールドが 7 要素となります。仕様の詳細については、別添資料 1 をご覧ください。

3 サンプルデータ

サンプルデータは（一財）気象業務支援センターに提供しておりますので、必要な場合は同センターへお問い合わせください。

4 ホームページ上の楕円表示の改修イメージ



令和 5 年 2 月 8 日
令和 5 年 5 月 12 日一部訂正
令和 8 年 5 月 28 日改訂
令和 8 年 9 月 17 日一部訂正
気 象 庁 大 気 海 洋 部

配信資料に関する仕様 No. 11103

～線状降水帯の雨域（シェープファイル形式）～

1. データの内容

線状降水帯発生情報は、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って速報する情報です。令和 3 年より顕著な大雨に関する気象情報として、令和 8 年より気象防災速報（線状降水帯発生）として、**実況、10 分先、20 分先、30 分先のいずれかにおいて発表基準を実況で満たしたときに発表**します。それにあわせ、実況から 30 分先までの予測における線状降水帯の雨域を示す楕円データを提供します。

- ・線状降水帯に関する各種情報の解説ページ

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html

2. ファイル形式

線状降水帯の雨域のファイル形式の概要は以下のとおりです。シェープファイルの形式は ESRI ジャパン株式会社の技術情報をご参照ください。

ファイル形式	シェープファイル（メイン・ファイル、インデックス・ファイル、属性ファイルで構成する。）
使用するシェープ・タイプ	Polygon のみ
属性ファイル	フィールドは、予測種別、解析日時、予報対象日時、楕円番号、対象地域数、一次細分区域コード、描画フラグの 7 要素。 フィールドの詳細については別添 1 を参照。
作成頻度	10 分毎
ファイルサイズ	最大で約 100KB（gzip 圧縮前のサイズ。）

※ レコードのイメージを別添 2 にまとめます。

※ 本データ（線状降水帯の雨域）は Web メルカトル図法上で楕円に近似した多角形（polygon）です。

※ すべての領域において線状降水帯の雨域がない場合は、ファイル・ヘッダのみを配信します。

※ 本形式に沿って作成したデータは、GIS ソフトウェアの QGIS3.18.2 において正常に表示できることを確認しています。

3. ファイル名

- ・線状降水帯の雨域

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Pslmcs_Fper10min_FH0000-0030_shape.tar.gz

次の三つのファイルが展開されます。

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Pslmcs_Fper10min_FH0000-0030_shape.shp

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Pslmcs_Fper10min_FH0000-0030_shape.shx

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Pslmcs_Fper10min_FH0000-0030_shape.dbf

- ※ Z と C の間にはアンダースコアが 2 個設定されている点に注意してください。
その他のアンダースコアは 1 個です。yyyyMMddhhmmss はデータの年月日時分秒を UTC（協定世界時）で表します。

4. サンプルデータ

サンプルデータは（一財）気象業務支援センターに提供しておりますので、必要な場合は同センターへお問い合わせください。

5. 利用にあたっての留意事項

別添3を参照願います。

【改訂履歴】

○令和 8 年 5 月 28 日

属性ファイルに描画フラグを追加。

以上

属性ファイルのフィールド

別添 1

フィールド名	和名	フィールド型	フィールド長	とりうる値	説明
FCSTTYPE	予測種別	C	1	1 桁の数値	1：実況で 顕著な大雨に関する気象情報線状降水帯発生情報 の発表基準を超過。 2：予測で 顕著な大雨に関する気象情報線状降水帯発生情報 の発表基準を超過。 3～9：予備
BASETIME	解析日時	C	12	12 桁の数値	解析日時を UTC（協定世界時）で記載。 （例：令和 4 年 8 月 3 日 17 時 30 分（JST（日本標準時））は、202208030830）
VALIDTIME	予報対象日時	C	12	12 桁の数値	予報対象日時を UTC（協定世界時）で記載。 （例：令和 4 年 8 月 3 日 18 時 00 分（JST（日本標準時））は、202208030900） FCSTTYPE が” 1” の場合は解析日時となる。
ID	楕円番号	C	2	2 桁の数値	線状降水帯の雨域毎に割り振られる番号。 FCSTTYPE（予測種別）毎、BASETIME（解析日時）毎、VALIDTIME（予報対象日時）毎に” 01” から順に割り振る。楕円領域の識別用 ID としての利用を想定している。このため、別の FCSTTYPE、別の BASETIME、別の VALIDTIME において ID の連続性・関係性はなく、同一 ID であっても、FCSTTYPE、BASETIME、VALIDTIME が異なれば、必ずしも同一の線状降水帯を表しているわけではないことに留意。
AREACOUNT	対象地域数	C	2	2 桁の数値	対象とする線状降水帯の 雨域 において、 顕著な大雨に関する気象情報線状降水帯発生情報 の発表基準を超過した一次細分区域数。 （例：01）
ICHIJICODE	一次細分区域コード	C	251	6 桁の数値と コロンの組み合わせ （251 に満たない部分は半角空白でパディング）	対象となる一次細分区域。コードは、気象庁防災情報 XML フォーマット*の個別コード表に記載。（例：青森県の「津軽」は「020010」） 対象地域数だけ繰り返し、対象地域が複数の場合は一次細分区域コードはコロンの「:」で接続する。
DRAWFLAG	描画フラグ	C	1	1 桁の数値	1：予報対象日時が一番解析日時に近い楕円 0：上記以外の楕円。

※ 気象庁防災情報 XML フォーマット 技術資料 (https://xml.kishou.go.jp/tec_material.html)

表示する線状降水帯の雨域に対応する
レコードのイメージメイン・ファイル
(~.shp)

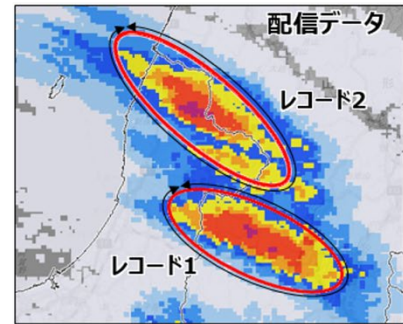
Points			
経度1	緯度1	経度2	緯度2...
経度1	緯度1	経度2	緯度2...

インデックス・ファイル
(~.shx)

オフセット
レコード1のオフセット
レコード2のオフセット

属性ファイル
(~.dbf)

FCSTTYPE (予測種別)	BASETIME (解析日時)	VALIDTIME (予測対象日時)	ID (精円番号)	AREACOUNT (対象地域数)	ICHJICODE (一時細分区域コード)	DRAWFLAG (描画フラグ)
1	202208030830	202208030830	01	01	150010	1
2	202208030830	202208030900	01	02	060020:150010	0



フィールド長251に満たない部分は、半角空白でパディング。

線状降水帯の雨域（楕円データ）の利用にあたっての留意事項

- (1) 雨雲の画像に重ね合わせることで、どの雨域が気象防災速報（線状降水帯発生）の発表基準を満たすか分かりやすく伝えることを目的としており、大まかに楕円で表示しているものです。地図を拡大表示したときに、線状降水帯の雨域の位置を精度高く描画しているものと誤解されないように留意願います。
- (2) 楕円の内側か外側かで、キキクルが示す危険度に違いはありません。また、気象防災速報（線状降水帯発生）の発表基準を下回り、楕円データの提供がなくなっても、その瞬間から安全になるわけではありません。断続的に提供されたりされなかったりすることもあります。

避難などの判断への利用やその解説にあたっては、提供される楕円データの、時間的・空間的な範囲を厳密に捉えすぎることなく、大雨による災害発生の危険度が高まっている地域や時間帯に着目することが重要です。
- (3) 大雨に関する防災気象情報は、危険度の高まりに応じて段階的に発表されます。線状降水帯に関する情報だけを待つことなく、警報やキキクル等の警戒レベル相当情報を活用してください。